



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



司教の手紙

聖マリアと聖ヨセフとともに 神の子の誕生を祝う

鹿兒島教区司教 中野裕明



教区の皆さま、お元気で
しょうか。

今回はクリスマスを迎える準備として、マリア様とヨセフ様のごことに思いを馳せながら信者としての生き方を求めていきたいと思ひます。

幼子イエスの誕生の次第については、ルカ福音書2章11-21節とマタイ福音書1章18-25節に記されています。教会や幼稚園で上演される「聖劇」の物語はこの二つの福音書をもとにして構成されています。内容的にはマリア様のごことはルカ福音書から、ヨセフ様についてはマタイ福音書から引用されています。個別に見ていきたいと思ひます。

マリア様の場合、洗礼者ヨハネの誕生物語と並列する形で記されています。つまり、洗礼者ヨハネ誕生の予告(ルカ1・5-25)、イエス誕生の予告(同1・26-37)、洗礼者ヨハネの誕生(同1・57-66)、イ

エスの誕生(同2・1-21)。両者に遣わされた天使は、ガブリエルで共通していますが、①予告の対象者、②予告の場所、③予告の内容が違います。

予告の対象者Ⅱ洗礼者ヨハネの場合は、その子のお父さんとなるザカリアで、祭司でした。イエスの場合は、ヨセフという人の許嫁で、マリアという少女でした。

予告の場所Ⅱザカリアは神殿で、祭司職の務めを果たしている最中でした。マリアは、ナザレという小さな町の家の中でした。

予告の内容Ⅱザカリアに対して天使は、「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリザベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。」(ルカ1・13)というもので、一方、マリアに対しては、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」という語りかけでした。この点について両者の違いが分かるでしょうか?

ザカリアに対しては、長い間子供を願っていた夫婦に対して、その願いが叶うという喜ばしい知らせだったのに対し、マリアへの予

告は、まるで予期しない事柄で、まるで、宝くじの主催者が当選者に一方的にその喜びを告げるような雰囲気さえ感じさせるものでした。

ところで、その後、天使との対話が続くのですが、ザカリアは、高齢の妻に今更子供ができるはずはないと、知らずに疑問を呈しました。一方、マリアは「自分は男の人を知らないのにどうしてそのようなことがありえましょう。」(ルカ1・34)と疑問を呈しながら

「神にできないことは何一つない。」(同1・37)との天使の言葉を受け入れて、最終的には神の意思を受諾します。

この二人への予告と幼子イエスの誕生は、旧約時代と新約時代の境目にあつて、それぞれの時代の特徴を表しています。

旧約時代は、祭司ザカリアのように神から与えられた律法を果たしながら、子宝に恵まれました。しかし、天使の言葉を信じ切る、というところまではいきませんでした。それでも神の介入で、洗礼者ヨハネは生まれました。一方マリアの場合は、身分の卑しい一介の少女に過ぎないにもかかわらず、神は彼女の同

意を求めました。彼女の「はい」がなければ、幼子はこの世に誕生することはなかったに違いありません。

ヨセフの場合に話を移します。「母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにする

ことを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は、自分の民を罪から救うからである。」(マタイ1・18-21)

この文章の中の「ダビデの子ヨセフ」と「ヨセフは正しい人だった」とについて説明いたします。

マタイ福音書の冒頭にあげて私たちがここに集まっているとした。また司教は鹿兒島にゆかりのあるシドゥチ神父や聖フランシスコ・ザビエルの偉業についても解説し、「人々の中にある壁を乗り越え、分かち

合うことができたらいいが彼らの共通点。私たちもザビエルやシドゥチ、レオ七右衛門のに倣い対話のできる人となり、開かれた心を育んでいこう」とメッセージを送った。この日のミサの中では堅信式があり、二人が恵みに浴した。

00年間イスラエル国を失い、異邦人の支配下に下ることになります。しかし、イエスの誕生のころは、ローマ帝国の支配下にありながらも、神殿建立によってダビデ王の威光は続いていた。但し、イザヤが予言した幼子は、この世の王ではなく人類の罪をゆるす王になる方でした。

殉教は神のいつくしみのあらわれ

福者レオ七右衛門殉教祭で司教

11月14日(日)川内教会(主任司教・メニツヒ神父)では、中野裕明司教司式で福者レオ七右衛門殉教祭のミサをささげた。

薩摩の殉教者と称えらるるレオ七右衛門(税所七右衛門敦朝)は、北郷加賀守の家臣で、キリスト教禁制下の1608年7月22日に京泊教会でミニコ会の神父によって受洗。そのわずか4か月後の11月17日、信仰を棄てなかつた罪で斬首刑に処せられ殉教し、20

08年11月に福者に上げられていた。

午前11時から始められたミサのヨハネ福音書朗読後に説教した中野司教は、レオ七右衛門の生きた時代とレオ七右衛門の人となりを取り返し、「真理を見つけたまっすぐに生き抜いたレオ七右衛門の死は地に落ちて死ぬことで、多くの実を結ぶ一粒の麦のようだ」と述べ、神のいつくしのあらわれとも言える殉教を成し遂げたレオ七右衛門の死のお

訃報

西田正神父

コンベンツアル会の西田正神父が10月21日(木)肺炎のため入院先の長崎みなとメディカルセンターで帰天した。75歳だった。奄美大島笠利町生まれの西田神父は、1965年に

コンベンツアル会聖フランシスコ会に入会し翌年、初誓願を宣立した。司教に叙階されたのは1975年4月13日のこと。以来奄美大島、沖縄、長崎で働いた。

W・キツベス神父

レデンプトール会のワルドマール・キツベス神父が10月31日(日)老衰のため旧臨床パストラル教育センターで帰天した。91歳だった。ドイツ生まれのキツベス神父は1955年7月31日に司教に叙階され、同年11月に来日、鹿兒島教区では谷山、川内、加世田、徳之島で働いた。また日本におけるスピリチュアルケアの普及に尽力した。



これまで、①小教区の目指す姿(班中心の教会)について、②これを実現する方法の1番目の方法として「聖書の分かち合い」について述べてきましたが、③今回から2番目の方法として班で要理(カテキスタ)の学び合いについて説明していきたいと思えます。

第二バチカン公会議以降「要理教育」についても刷新が行われ、その考え方を集約したものが教皇ヨハネ・パウロ二世の使徒的勸告「要理教育」です。この日本語版が1980年に故里脇浅次郎枢機卿の訳で発行され、2002年には、改訂版がカトリック中央協議会から発行されています。

「要理」ということばを聞くと、まず思い浮かぶのは、子どもの要理であり、求道者の要理だと思えます。それはカトリック教会伝統の問答形式の要理書であり、その指導者は、聖職者や要理教育の専門教育を受けた信徒のカテキスタ(要理教師)が教えるという、いわゆる「注入方式」と呼ばれるものです。

カトリック新聞やカトリック書店などで要理教育の新しい方法として「α(アルファ)コース」とか「グリフィン講座」などという現代的にマッチした方法が紹介されてきましたが、今回のシリーズでは、アジア司教協議会連盟開発のASIP A(アシパ)プログラムのなかで推奨されている「ともこの道を」という新しい要理について紹介したいと思います。

これを求道者の要理教育や、堅信以降の成人の信仰養成に役立てていただければ幸いです。

1. 「ともこの道を」とは何か

▼このテキストの由来
このテキストは「One Journey Together」共に歩む旅」という原本の考え方に従って作られたものです。このイメージは、イエスが十字架にかかって亡くなった後、二人の弟子がエマオへ行く途中で復活されたイエスが同伴して、いろいろ教えてくださった場面や、イスラエルの民がエジプトからカナンの地に旅する場面からもきています。すなわち、信仰を同じくする民が、老いも若きも互いに教え、支え合いながら信仰の旅を続けるということなのです。

活したイエス、あるいは聖霊または神という考え方に基づいています。エマオへの旅の途中いろいろ教えてくださったのは復活したイエスであり、エジプト脱出の旅でイスラエルの民をいろいろな形で教え導いたのは神さまであつたように、この要理で教え導いてくださるのはカテキスタではなく神さま(イエス)ご自身であるという考えです。

新しい要理 「ともこの道を」とは何か?

教区シノドス推進会事務局 長 野 宏 樹

信徒発見後発生した「浦上四番崩れ」で日本各地(鹿児島を含む)に流配された長崎の信仰の先輩たちは、流配されたことを「旅」と呼びましたが、このテキストのタイトルは、天国への旅を続けている私たちにとって、ふさわしいもののように思えます。

▼対象者
この要理の対象者は、第二に「求道者」であり、第二に私たち「堅信以降の信徒」、つまり、キリスト者の信仰の成熟のためのものといえます。

▼特徴
①神さま(イエス)が同伴者です
この要理の主人公は、復

活したイエス、あるいは聖霊または神という考え方に基づいています。エマオへの旅の途中いろいろ教えてくださったのは復活したイエスであり、エジプト脱出の旅でイスラエルの民をいろいろな形で教え導いたのは神さまであつたように、この要理で教え導いてくださるのはカテキスタではなく神さま(イエス)ご自身であるという考えです。

②聖伝と聖書が源泉です
要理教育の源泉は「聖伝」と「聖書」であると教会は教えています(要理教育27項)。これまで私たちが要理の源泉としていたものは、どちらかというと聖伝でした。聖書はその聖伝を補強

④分かち合い方式で行います
この要理では、要理の専門家が教えるというやり方ではなく、参加者が神の前で、同じ立場で、各自が経験したことや感じたことなどを分かち合いながら進めていきます。進行係はテキストに記載されたとおり進行していくのみで、参加者と同じように分かち合いに参加していきます。

⑤班(地区)集会にも参加します
求道者はこの求道者共同体に入ったから、できるだけ早く近所の班(地区)集会に参加するようにします。これまで洗礼を受けてから地区集会に参加するというケースがほとんどでしたが、求道者の段階から参加するようにと要理教育24項で強く勧められています。

ともこの道を(1)

「C. さらにもう一步」の段階
AとBから、今後の生活にどのように応用していけばよいかについて話し合います。

「D. 覚えましょう」の段階
覚えるようにします。

③求道者共同体(班)集会で行う時を構成します
この要理に参加するのは、求道者であり、このグループを世話する進行係です。また、求道者を教会につれてきた紹介者(この人は将来求道者の代父母になります)であり、求道者の近くに住む信徒たちです。これらの人々は求道者共同体(班)を構成して、ともに信仰の旅を歩みます。

①神さま(イエス)が同伴者です
この要理の主人公は、復

2. 「ともこの道を」の進め方

一回の集まりには一つのテーマがあり、それを基にして、次のように順を追って進めていきます。

「A. わたしたちの身の周りのことから」の段階
この部分では、わたしたちが日頃遭遇するテーマに沿った物語や絵を見て、それについてどう感じるか、何が原因と考えるか、どうすればよいか、といったことについて分かち合います。

「B. 神さまのことば」の段階
テーマにそつた聖書の箇所を読み、じっくり味わい、感じたことについて分かち合います。

「C. さらにもう一步」の段階
AとBから、今後の生活にどのように応用していけばよいかについて話し合います。

「D. 覚えましょう」の段階
覚えるようにします。

③ 従来の要理学習との比較
この次の表は、従来の要理の専門教育を受けたカテキスタ(要理教師)が学校の教室のように生徒に教えるという方法と、求道者共同体参加者が皆で教え支え合

従来の要理	ともこの道を
カテキスタが教える	進行係は世話をのみ
頭で理解する	信じて実行する
一方的(受け身)	自分も参加し発言する
信仰と生活が遊離の危険	信仰と生活が一致
教理(知識偏重)	福音(全人格形成)
受洗後、孤立、さびしい	受洗後、共同体の中で交わり
理路整然としている	理論面の補強が必要

うという両方を、少し際立たせる形で比較したものです。後者は、これまで不足しがちだった信仰と生活の一致が図られるという特徴があり、洗礼後の教会離れが少ないと評価されています。

この要理の方法を生かすには、不足しがちな理論面を補うことが必要です。たとえば、同じテーマで理論的な説明をおこなってからは、月三回の集まりの中で、一回は理論面の説明をするなど。

テキストの紹介
*「共に歩む旅」(出版・サンパウロ)..
*「共に歩む旅」(出版・サンパウロ)..
本を大阪教区で翻訳したもので、2年間コースを前提としている。(現在絶版)

+KABAYAN SEKSYON+

Lugod-Sa Harap ng mga Pagsubok ng Buhay

Kabilang sa liturhiya ng Simbahan ang dalawang panahon ng pagsisisi at pagpapanibago, Adbiyento at Kuwaresma.

Sa dalawang panahong ito, kapwa may isang Linggo na humihimok sa mga mananampalataya na magsaya, na maging maligaya [Linggo ng Gaudete sa Adbiyento at Linggo ng Laetare sa Kuwaresma].

Ang pagsasaya sa gitna ng mga hilahil ng buhay ang katangi-tangi sa pananampalataya at espirituwalidad na Kristiyano; ito ang huwaran kung paano magpahayag ng Magandang Balita sa kasalukuyang daigdig.

Maraming ibinabahagi si Beata Madre Teresa ukol sa pangangaral na puno ng kasiyahan para sa kanyang mga kasamang madre at maging para sa lahat ng mga laikong Katoliko. "Kung kayo'y masaya, huwag kayong mag-aalala...mangungusap ang kasiyahan sa inyong mga mata at sa inyong anyo, sa inyong pakikipag-usap at sa inyong tindig.

Hindi ninyo maaaring itago ito sapagkat nag-uumapaw ang kaluguran. Kapag makita ng mga tao ang kaligayahan sa inyong mga mata, matatalos nila ang katotohanang sila'y mga anak ng Diyos."

"Sadyang nakakahawa ang kasiyahan. Kaya't sikapin ninyong mag-umapaw sa kasiyahan sa tuwing tutungo kayo sa mga dukha."

Walang duda na ang kasiyahan ng Kristiyano at mga masasayang tagapagpahayag ng Ebanghelyo ang pinakamabisang tagapagtotoo sa Ebanghelyo.

Mga kaibigan, piliin ninyo ang kasiyahan at piliin ninyo ito sa araw-araw. Ang kasiyahang ito ang magbibigay sa atin ng kapanatagan ng loob dahil ang Panginoon Hesus mismo ang ating tunay na kasiyahan.

LAIKO, SIMBAHAN AT MISYON
(Fr. Dino Orolfo)

二つの会を統合し活性化を

聖心教会の青年会と壮年会Ⅱ青壮年会

聖心教会（鈴木康由神父主任司祭）では、昨年度（2020年）から高齢化や信徒数の減少に伴い、青年会と壮年会をひとつにし、その後、またいつ感染拡大が起こるか分からないことから、久しぶりに青壮年会で集まるうとの話がもちあがり、

そこで10月24日（日）に一部リニューアルされた聖心教会センター1階ロビー



2年ぶりに堅信式

ザビエル教会

10月31日（日）ザビエル教会では主日のミサの中で、2年ぶりの堅信の儀があり、12人が恵みに浴した。マルコ福音書朗読後に説教した中野司祭は、まずコロナウイルス蔓延前と蔓延する今とで生活や生き方に変化があったかを問い、大事なものとそうでないものを識別する生き方の大切さについて説いた。その上で堅信の秘跡について触れた司祭は、「堅信の秘跡によって頂く信者を強めてくれる聖霊は、天に上げられたイエスの意義を解き明かすもの。イエスことを理解し霊



において約1年半ぶりに懇親会が開かれ、16人の参加がありました。会の冒頭に主任司祭の鈴木神父様から恩人のために祈ろうと呼びかけがあり、先日帰天された当教会壮年会の先輩であられる郡山昌太郎さんと暁浩明さんのご冥福をお祈りし献杯を捧げ、久しぶりの再会を分かち合いました。約3時間の懇親会は先輩

後輩の間でも忌憚のない意見で盛り上がり、厳しいコロナ禍にあつて閉塞感もある中、数年ぶりに聖心教会が活気に溢れ、奄美の中心教会として今後に希望ももてる一夜となりました。こうした信徒間の繋がりが、また一人ひとりの交わりが今後教会を盛り上げていくことになるでしょう。

（報告 聖心教会青壮年会代表・泉 智憲）

カリタス鹿兒島献金

特に待降節中の募金に力を入れていたカリタス鹿兒島では、今年も苦しむ人々を支援する献金をお願いすることにした。これまでは教区にある児童養護施設の援助に充てられてきた同献金だが、今後は災害に遭った人や日本での生活で苦しんでいる外国人、また今年が困窮している人の応援に活用したいとしている。郵便振替口座 口座番号 020301218359 加入者名 カトリック鹿兒島司教区 ※通信欄に「カリタス鹿兒島」と明記のこと。

117人でスタート

聖書愛読運動

鹿兒島教区初の聖書愛読運動（新約聖書編）が11月21日（日）スタートした。この運動に申し込んだのは117人。内訳は信徒86人、修道者23人、聖職者8人。信徒の中には教区外に住む鹿兒島県関係者2人も含まれている。この運動を発案したシノドス信仰部会では、強敵と目される修道者たちより早くゴールする信徒が何人いるか楽しみにしている。

教区司祭が黙想会

現在、仙台教区で働く幸田和生元東京大司教区補佐司祭を指導者に招いての教区司祭の黙想会が10月19日（火）から22日（金）まで、ザビエル教会で開かれた。テーマは「キリストの祭司職を生きる」ヘブライ書とわたしたちのミッシヨン」。20人余りの教区司祭たちが熱心に黙想した。

待降節に入ると受胎告知の場面にみられる「お言葉どおり、この身に成りますように」というマリア様の大天使ガブリエルへの返答を黙想される方も多いことでしょうか（ルカ1・38）。ところで、福音書を読むとイエス様は神様に向かって「あなたをほめたたえます」と祈られます（マタイ11・25、ルカ10・21）。面白いことにこの言葉は原語では「まったく同意する」「全面的に承諾する」を意味します（ルカ22・6）。また、もともと負債を認

めることを前提として「告白することから「白状する」「告白する」という意味もあります（マタイ3・6、マルコ1・5）。ここから派生して「ほめたたえる」「賛美する」

《康由神父の聖書教室》

受胎告知から見るマリアの従順

「そして「感謝を捧げる」という意味をもつようになつたと考えられています。このまに受け入れることが信仰にとって重要な点でも



あると言えるのではないのでしょうか。私たちに受け入れがたなことが日常生活の中で少なからずあります。それらを甘受することや忍耐する

してしまつたりするものです。神様の計らいは私たちの理解を遥かに超えています。だからこそ預言者イザヤが語るように「信じなければ確かにされない」ので（イザヤ7・9b）。私たちがマリア様に倣い神様に対して従順に生きようとするのなら、まずは現実を現実としてそのまま受け入れることが必要かもしれません。そしてその現実が自分にとって何を意味するのかを祈りを通じて考え

鹿兒島カトリック教師の会
集会（ハイブリッド型ウェビナー）のご案内
 長らく休止状態だった教区の「カトリック教師の会」を再開することになりました。定期的な集会により、黙想会・霊的講話・体験の分かち合い・研究会・会員同士の親睦の機会などを提供させていただきます。

日時 12月12日（日）15:00～16:30
場所 鹿兒島教区本部2F会議室（+オンライン会議サービスjitsiによる参加）
対象 教区内のあらゆる種類の教育施設で働くカトリック信者の教職員、およびカトリックの精神に共鳴する教職員
内容 自己紹介、会の今後の活動の仕方について、第16回シノドス《ともに歩む教会のため》に関する分かち合い
担当 末吉神父・霧島神父
申込 氏名、勤務校名、現地参加・オンライン参加の区別を含めて12月10日（金）までに【kago.cath.kyoushi@gmail.com】へ。お問い合わせも同アドレスへ。

祈りの意向

【折祷の使徒会】福音宣教 日本教会 カテキスタ クリスマスの喜びと祝福

1日（水）	中野アカデミー・教区本部・19時
3日（金）	日本の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭
5日（日）	待降節第2主日
6日（月）	宣教地召命促進の日（献金）
7日（火）	貴島大司教叙階記念（2015年）
8日（水）	無原罪の聖マリア
10日（金）	糸永真一司教命日（2016年）
12日（日）	待降節第3主日
15日（水）	中野アカデミー・教区本部・19時
19日（日）	待降節第4主日
22日（水）	有馬信茂神父命日（2007年）
23日（木）	池上聖行助叙階記念（2010年）
25日（土）	中野アカデミー・教区本部・19時
26日（日）	松永正男神父叙階記念（1969年）
27日（月）	主の降誕
28日（火）	オリブの会・教区本部・14時
29日（水）	聖ヨハネ使徒福音記者
30日（木）	寝占敷之神父、山口好信神父、末吉卓也神父霊名
30日（木）	霧島彬神父叙階記念（2018年）
30日（木）	マルケット神父命日
30日（木）	【司教日程】1日中野アカデミー、3日聖ザビエル司祭ミサ、9日臨時司教総会、11日大口明光学園、13日愛の聖母園、15日中野アカデミー、22日中野アカデミー

会と催し 12月

ヒエラルキーという語について

(3)

紫原教会主任司祭 山口好信

ディオニシウスの言うヒエラルキーとは、人が浄められ、照され、完成されていく霊的な歩みを可能にする「聖なる秩序・知識・活動の総体」であり、教会全体のことでした。

『教会位階論』と訳されてきた書は、ポール・ローレムに従って述べると、最初に3つの秘跡(洗礼、エウカリスチア、聖香油の聖別)が述べられ、叙階式(司教、司祭、助祭の)、修道僧の剃髪式、死者の儀式という順序・内容で構成されています。

人は洗礼によって神との関係を持ち始め、エウカリスチアすなわちミサによってキリストをいただく。「聖香油」は天に昇るような香りによって神との一致の完成を象徴します。洗礼までの段階で浄められ照らされ、ミサの段階でキリストとの一致を得、さらに照らされて「聖香油」のいい香り、かんばしさにによって天的な完成を見るときは順序です。

ミサの箇所その前半部分にしかあずかれない悪魔憑き、悔悛者、求道者の3者についても述べられます。そしてそれら秘跡の執行者である司教らの叙階式について述べ、その後、一般信徒の中で最も聖なる生き方として修道僧を挙げ、その剃髪の儀式、そして最後に、死者の葬儀、すなわち神の約束を守って聖なる生活を送った者は、肉体も浄められて復活の栄光、神との一致の祝福を受けるといふ「葬儀」について述べ

られています。人の霊的誕生から死後まで包むのがヒエラルキーです。このように、この文書の順序と内容を見ても、聖職位階だけをヒエラルキーとは言っていないことは明らかです。

ところで、浄め、照らし、完成するといった働きの元に、「神と一致した人」としての司教がいます。「すべての司教がいます。すべてのヒエラルキーはイエスの中に終わるように、それぞれ個々のヒエラルキーは霊感を受けた司教の内にとまる」(505B)。

司教叙階式では司祭や助祭の叙階式にはない「頭の上に聖書を置く」という象徴的行為があります(513CD)。聖書の真理すなわち神の言葉と行いに完全に通じていること、神の働きを十分に受け止めていること、その意味で神とキリストに完全に一致していることが司教叙階の前提にある。司教の上に、司教の前に、聖書があるという点も重要なことなのです。世俗的な考えから聖なるものに浄めていく力、暗黒だった心を真理で照らす力、不完全なものを完全なものにする力、これらの力を、司教から始まって司祭、助祭が持つ、持っているはずという

こと(504AB)。

りません。

しかしながら現実の教会は、キリスト教がローマ帝国の公認宗教となつてからは、司教たちの社会的地位は高くなり特権と権力を持つようになったことは、これまでの連載で述べてきました。要するに、聖職位階は霊的だけではない「力」を持った存在になっていきました。

霊性史のジャン・ルクレルによると、特に13世紀頃からディオニシウスのヒエラルキー論は教会観に深く影響していきます。教会は世俗的かつ宗教的な全領域で「支配的権能・権力」を持ち、その力は位階的に与えられているのだと理解されていきます。ディオニシ

ウスのヒエラルキー論は、西欧封建社会とそこに組み込まれた教会の身分秩序を根拠付けるものになりました。

20世紀初頭に生まれたユダヤ人哲学者にシモーヌ・ヴェイユという女性がいます。「シモーヌ・ヴェイユはナチス・ドイツ占領下のパリを逃れ、一時南仏に滞在していたが、その頃、彼

文芸

短歌 吉野教会 中江均

天高く西陽に映える桜島マスクで集う唐湊墓地のミサ

俳句

谷山教会 東健一郎

イエズスを知る程に軽くなりたる病かな
妻送る聖歌集を妙薬に

KJP

(鹿兒島正義と平和協議会) 通信 12月号

振り返れば恥ずかしいことばかり

「お前は本当に信仰が薄いなあ」と、いつもイエスキスマにはあきれ顔をされています。教会の活動にも少し関わってききましたが、その中でも、どれだけ人を傷つけてきたか分かりません。気付くのはいつも後の祭り。よかれと思つてやったことが、結局はただの自己満足だったり、本当に、振り返れば恥ずかしいことばかりです。

「天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」(マ

女はデオダ・ロシユのカタリ派に関する論文を読み、大きな感銘を受けた。それはほかでもなく、カタリ派が力の誘惑に屈しなかった宗教運動であったことを知ったからである。彼女によれば、力の誘惑に屈しなかつた宗教はきわめて少なく、ほとんど皆無と言つてもよい。しかも力の誘惑に屈した宗教はかならず堕落する、というよりも、力の誘惑に屈すること自体が宗教の墮落なのである。ローマ教会も例外ではない。ヴェイユが、キリスト教、とりわけカトリックにつよく惹かれながらも、ついに信しなかつたのは、それゆえであった。もちろん、カトリックにも、たとえば聖フランチェスコのように、力を軽蔑することができた聖職者あるいは信者がいたが、あくまでも少数の個人でしかなかった。：「(ミシェル・ロクベール)『異端

カタリ派の歴史』の「訳者まえがき」)

私が思うに2種類の権威(権力)があります。一つは、有無を言わずに下位者を従わせる権威。もう一つは、下位者が上位者の姿を見て、喜んでそれに従いたいと思うような権威。カリスマ的な権威ともいえます。「すべてのものがイエスにひざまずき、あなたこそ私たちの主です」(フィリピ2・10)と自然に言わせる権威です。宗教信仰は自発的・かつ啓発的なものであるべきです。

幸いなことに、私たちは「フランシスコ」の名を自ら選んだ教皇を長としていただいています。今回の第16回世界代表司教会議準備文書(2021年)やその前の世界代表司教会議設立50周年記念式典(2015年)における教皇フランシスコの演説で、「共に歩む」神の民の教会にしまし

しつかり生きています。

「あなたが祭壇の上に供え物を献げようとし、もし兄弟があなたに反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから

短信

▼玉里教会で堅信式

中野司教は11月7日(日)、玉里教会を訪問し5人に堅信の秘跡を授けた。

▼死者のために祈る

死者の月に入った11月7日(日)、鹿兒島市のカトリック唐湊墓地と奄美市の名瀬納骨堂前広場で死者のためにミサがささげられた。

ようと呼びかけておられます。なぜなら、まさに「シノドス的な歩みとは、神が第三千年期の教会に期待しておられる歩みなのです」と。「準備文書」に「教会が位階的な機能をより強く強調するようになった第二の千年期においても、こうしたやり方、つまり「共に歩む」というやり方は継続していったとあります。この方向での刷新が求められています。(了)

* Paul Rorem, The uplifting spirituality of Pseudo-Dionysius, "Christian Spirituality origins to the twelfth century," 所収。ジャン・ルクレル Jean Leclercq に関して前回と同じディオニシウスの英訳全集。

おこたわり 山口好信神父のコーナーは、今回で終了いたしました。ご了承ください。

悲惨な状況の中で、家族を失い、後遺症が残ったり、仕事を失い、経済的にも行き詰ったり、無自覚に差別したり、差別されたり、自殺した人もたくさんいます。

これから私たちがどう生きていけばいいのか、何を大切に生きていくのか、絶えず絶えず、イエスキスマに、神さまに立ち戻って、問いかけ続けたいと思ひます。(谷山教会 本村裕之)

また「空の鳥をよく見なさい。種を蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養つてくださる」(マタイ6・26)というイエスキスマのことばを聴くと、こころが安心します。

この2年間、コロナ感染拡大のなかで私たちは多くのことを学びました。

▼社会問題の分かち合い

(毎月第3土曜日)

日時：12月18日(土)

13時～16時

場所：教区本部

内容：原発・改憲・沖縄

問題についての情報交換

その他